

財団委員会アワー

「～世界でよいことをしよう～ ロータリー財団」

●国際ロータリー第 2680 地区

ロータリー財団委員会 副委員長 城 守 様



私、本日の例会卓話を担当させていただきます、第 2680 地区ロータリー財団委員会副委員長を務めています姫路ロータリークラブ所属の城 守でございます。また財団委員会では環境の保護小委員会の委員長も昨年度から務めています。

龍野ロータリークラブ様におかれましては、毎年度ロータリー財団へ多額のご寄付を賜り厚く御礼申し上げます。特に前年度は 8,444 ドルものご寄付を賜りました。重ねて御礼申し上げます。

今回の卓話は 11 月のロータリー財団月間に因んでのご要請でしたので、前半はロータリー財団について、後半は私が地区ロータリー財団委員会内の「環境の保護小委員会」を担当していますので、新しく重点分野に加えられた「環境」について少しお話をさせていただきます。

皆さまは、ロータリー財団のことを良くご存じのことと思いますので、おさらいとしてお聞き頂ければと思います。

まず、ロータリー財団の正式名称は、ご存知でしょうか。それは、「**国際ロータリーのロータリー財団**」です。**ロータリー財団の使命は**、ロータリー会員が、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。そして、**国際ロータリーの使命は**、職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて、人びとに奉仕し、高潔さを奨励し、世界理解、親善、平和を推進することです。

では、ロータリー財団へのご寄付は何に使われているのでしょうか？**ロータリー財団のプログラム**には、①ポリオプラス②グローバル補助金③地区補助金④災害救援補助金⑤ロータリー平和センター⑥大規模プログラム補助金があります。2020 - 21 年度のこれらのプログラムへの授与額合計は 3 億 750 万米ドル（現在の為替レートで換算すると日本円で 445 億 8750 万円）でした。

当地区では毎年度ガバナーよりロータリー財団への寄付金の目標が提示されています。今年度は会員一人当たりの目標として、年次基金は 160 米ドル、ポリオプラスは 40 米ドルです。年次基金はここ数年目標額に届かず、3 年後に地区に配分される地区財団活動資金も減少傾向でしたが、昨年度は久しぶりに目標を達成できました。龍野ロータリークラブ様の会員お一人当たりのご寄付は年次基金約 241 米ドルで地区目標を大きく上回って頂きました。誠にありがとうございます。ただポリオプラスへのご寄付は約 17 米ドルで少し足りませんでした。

地区補助金とグローバル補助金の資金は、ロータリー財団に対する年次基金寄付および恒久基金の収益のシェアシステムによって供給されます。すなわち、3 年前の年次基金寄付と恒久基金の収益の 47.5%(2023-24 年度までは 50%)が地区に配分され、地区財団活動資金(DDF)となり、47.5%(2023-24 年度までは 45%)が国際財団活動資金(WF)、5%が管理運営費となります。この DDF の 50%が地区補助金として使用できます。残りの 50%と前年度からの繰越金がグローバル補助金に使用されます。

ここで一つ気を付けて頂きたいことがあります。通常、ロータリー財団へのご寄付として手続きを

すれば年次寄付として取り扱われますので、ポリオプラスへはその一部しか割り当てられません。**ポリオプラスへ寄付をされる場合は指定寄付として手続きをして**、全額がポリオプラスへ寄付されるようお願い致します。地区内の多くのクラブではポリオプラスへの指定寄付がされていないのが現状です。今後3年間はポリオプラスへ毎年5000万米ドルを集めればパートナー団体であるビル&メリнда・ゲイツ財団からその寄付額の2倍の額が上乘せされます。

国際ロータリーとロータリー財団が今年度特に力を入れているのが「**ポリオ根絶**」です。国際ロータリーがポリオプラスとして1985年から取り組み始めてから、発症数が99,9%以上も減少しました。ポリオの根絶までにもう少しというところまでできています。

10月24日は「世界ポリオデー」でした。全世界一斉にポリオプラスのキャンペーンをしました。2022-24年度佐藤芳郎RI理事と地域コーディネーターの皆さまとの連名で、世界ポリオデーのポータルサイトを開設しています。ぜひご覧になってください。

当地区ポリオプラス小委員会では、ファンレイジングとして「ポリオ根絶チャリティーゴルフコンペ」を10月31日に開催しました。登録費の中から5千円を登録者の寄付実績として申請します。また、認知度向上のために2023年5月21日神戸まつりパレードに幼稚園児100名、ロータリアン60名、米山奨学生10名、米山学友10名、インターアクト10名、ローターアクト10名の総勢200名で参加する予定です。

ポリオプラスへの寄付手段の一つとして、「ロータリーカード」をご紹介します。ロータリーカードには2種類あります。まずはクラブカードとして是非ダイナースカードに入会をして頂けませんでしょうか。RIへの支払いなどクラブとしての支払いに利用して頂くと総額の0.3%がポリオプラスへの寄付となります。入会金、年会費は無料です。個人の場合、オリコのスタンダードカードをお勧めします。入会金、年会費は無料で利用金額の0.3%がポリオプラスへの寄付となります。オリコの法人カードであれば利用金額の0.5%がポリオプラスへの寄付となります。ぜひご検討下さい。

国際ロータリーがポリオプラスとして1985年から取り組み始めてから、発症数が99,9%以上も減少しました。ポリオの根絶までにもう少しというところまでできています。

1917年アーチC・クランプが提案したロータリー基金が、1928年ロータリー財団として認証され、今日に至っています。非営利団体である当財団は、ロータリー会員をはじめ、より良い世界を築こうというビジョンを共有する財団支援者の方々からの自発的な寄付のみによって支えられています。**ご寄付はロータリー財団の補助金となり、助けを必要とする地域社会に持続可能な変化をもたらす活動に役立てられています。**今後も皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

後半は、7つ目の**重点分野「環境」**についてお話します。

2020年6月26日、世界大会で、2019-20年度マーク・ダニエル・マローニーRI会長は、次のように話されました。気候変動は未来の世代にも影響を及ぼす問題である。ロータリアン、ローターアクター、ロータリアン候補者(一般の人々)を対象とした調査では、どのグループでも「環境」が関心事のTOP5に入っています。ロータリアン候補者(一般の人々)にとっては、第一に取り組むべきことであります。彼らが重点分野を見て「環境」が含まれないことを知れば別の団体を選択してしまうでしょう。環境問題は、私たちが本質的に取り組まなければならないと同時に、ロータリーの成長とも関係しています。「環境」を重点分野の一つとして挙げていないことは、成長の妨げになります。2019年の国際大会、ブラジルでのロータリー研究会、インドでのローターアクトイベントでも世界中で「環境」について質問されました。ロータリアンは、環境問題に取り組みたい

と考えているのです。以上の経緯からマーク・ダニエル・マローニー R I 会長は、「環境」が新たにロータリーの重点分野に加わることを発表しました。

他地区では早速「環境」へのプロジェクトをロータリー奉仕デーとして開始しました。2021年9月12日、R I 第2820地区（茨城県）の呼びかけに世界各地のロータリークラブが呼応し、それぞれの国のそれぞれの地域で市民と共に海岸や河川、湖沼を綺麗にするプロジェクトが行われました。当地区でも2ロータリークラブ、1ローターアクトクラブが参加しました。世界から245団体32,857人の参加登録があり、世界のロータリークラブが同じ日に市民と共にそれぞれの国で海岸等の清掃をしたのは、ロータリー116年の歴史において初めてのことです。

当地区も2021-22年度から「環境の保護小委員会」をロータリー財団委員会内に新設し、環境に関するロータリー、ローターアクト、インターアクトの取り組みを支援し、グローバル補助金、地区補助金の活用を奨励し、環境に関する研修やプロジェクトを検討しています。

環境に関する情報は **My Rotary** から簡単に入手できます。その中でも紹介されています、ポール・ホーケン氏率いる研究者・科学者らの団体が、可能な解決策のうち、どれが人と地球に最良の結果をもたらすかを研究し、それらの解決策が気候と経済に及ぼす影響を数学的にモデル化した書籍が「**ドローダウン（大気中の炭素量を減らす）**」です。その中には、女子の教育、家族計画の促進、農家の支援といった優れた解決策が提示されています。これらはどれもロータリーの重点分野と一致しており、既に世界各地のロータリアンがグローバル補助金を活用した活動をしています。

最後に貴ロータリークラブにお願いがあります。「ロータリーのビジョン声明」を達成するための「行動計画」の中にある四つの優先事項、そのうちの一つは「参加者の積極的なかわりを促す」となっています。会員の関心が高い「環境」が重点分野に入ることは、会員の参加意欲も沸いてくるので、「ロータリーのビジョン声明」「行動計画」の目指すところとも一致することになります。クラブが「環境」にかかわる奉仕プロジェクトを実施することで参加者が増えればクラブの活性化につながります。皆さんのクラブでも「環境」にかかわる奉仕プロジェクトをスタートさせることを視野に入れてみてはいかがでしょうか。